

点検項目	自己点検・評価
プログラムの履修・修得状況	令和7年度において、統計学は36名が履修し36名全員が単位を取得している。
学修成果	<p>本学で実施している授業評価アンケートに加え、本教育プログラムの対象科目内で行う演習課題を通じて、学生の授業理解度を確認している。</p> <p>アンケートにおいては、「講義や課題の難易度の適切さ」「具体的な知識・スキルの修得実感」などの設問を設けている。</p> <p>これら演習課題の結果とアンケート回答を参考に、学修成果の総合的な評価を行っている。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>授業評価アンケートにおいて、「到達目標をどの程度達成できたと感じますか」という設問に対し、「完全に達成できた」および「達成できた」との回答が合計77.7%に達した。</p> <p>この結果から、大半の学生が授業内容を概ね理解できているものと推察される。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>授業評価アンケートにおいて、「本講義を後輩や他の学生に推奨したいと思いますか」という設問に対し、「強く推奨したい」および「推奨したい」との回答が合計88.8%に達した。</p> <p>この高い推奨意向から、受講生の満足度は極めて高く、他学生へも自信を持って勧められる内容であったと評価できる。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>本年度の全学的な履修者数および履修率向上に向けた計画は、概ね計画通りに推移している。具体的な進捗状況として、授業評価アンケートにおける「他学生への推奨意向（88.8%）」や「目標達成度（77.7%）」という高い満足度が、次年度以降の履修者数増加に向けた好材料となっている。</p> <p>今後はこれら良好な結果を周知することで、さらなる履修率の向上を図る。</p>
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>現時点では修了者が未輩出のため、卒業後の活躍状況等の調査は今後の課題である。</p> <p>大半の学生が看護職・助産職の道へ進むことを踏まえ、本プログラムで得た数理・データサイエンスの素養が、将来の医療現場におけるデータに基づいた意思決定や、より効果的な健康増進活動の展開に繋がるよう、継続的なフォローアップ体制を検討していく。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>現状、産業界からの直接的な意見を得る機会は確保できていないが、今後は医療機関や関連企業との連携を通じた評価体制の構築を検討していく。</p> <p>修了生が卒業後、本プログラムで培った数理・データサイエンス・AIを武器に、医療現場の課題解決を牽引する人材として活躍することを強く期待している。</p>
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<p>看護・医療の現場で実際に活用されるデータを題材とすることで、数理・データサイエンス・AIを学ぶ意義を実感できる授業構成としている。また、Excelを用いたデータ分析の演習を通じて「データを自ら集計・可視化する」体験を重視し、学ぶ楽しさを感じられるよう工夫している。</p>
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	<p>毎年度、授業評価アンケートおよび演習課題の結果を分析し、理解が不十分な単元の説明方法や演習内容を見直すこととしている。また、Excelを用いた演習により抽象的な統計概念を視覚的に学べる工夫を行うとともに、生成AI等の技術動向を踏まえ、教育・実習委員会において授業内容の検討が行われている。</p>